

2019年3月3日

## 福音書からのメッセージ

祈っておられるうちに、イエスの顔の様子が変わり、服は真っ白に輝いた。

(ルカによる福音書9章29節)

今日の聖書には、イエス様の姿が変わったという出来事が書かれています。ここだけを読むと、なぜそのようなことが起こったのかよく分からないかもしれません。しかしこの箇所の前には、とても大事なことが書かれていました。それはイエス様が弟子たちに対して、ご自分の死と復活を予告されたことです。

弟子たちはいろいろな思いを持って、イエス様の後についていきました。自分たちが変わりたいから、世の中が変わってほしいから。人々は、メシアを待ち望んでいました。イエス様がメシアであってほしい、そう考える人もいたことでしょう。ところがイエス様は、とんでもないことを言い出します。「自分は人々から殺される」。じゃあ、残されたわれわれはどうになってしまうのか。弟子たちがそのように思う中、今日の出来事がありました。

いわゆる受難予告から八日たって、イエス様は三人の弟子に声を掛け、一緒に山に登ります。そのときに、祈っているイエス様の顔の様子が変わり、服も真っ白に輝き、モーセとエリヤという旧約時代の偉大な人物二人が現れて語りだしたというのです。まるで神の国の先取りのようなその光景に、弟子たちは興奮したことでしょう。この一週間、悲しみや不安が渦巻く中で過ごしてきた弟子たち。その前に現れた光景は、暗闇から光の中へと引き上げられるようなものでした。

ペトロはそのときに、こう言います。「イエス様、ここに仮小屋を三つ建てましょう」と。ペトロの心の中には、目の前に広がった栄光にあふれた状態が、いつまでもその



ままであってほしいという思いがあったのでしょうか。またイエス様がそのまま山に居続ければ、十字架に向かうこともないのです。イエス様も、そして自分たちも苦しい思いをする必要もないし、傷

つくこともないのです。いつまでも光の中で生きていきたい。「山を下りないで、このままでいましょうよ」、そのペトロの叫びは、わたしたちの叫びでもあると思います。自分だけのイエス様でいてほしい。

しかしイエス様は、山を下りることを選択されました。そして今必要としている人のそばに向かいます。これが福音、良き知らせなのです。わたしたちはイエス様を目指して、山の高いところまで行けなくてよいのです。聖書を学んだり、祈りの言葉を磨いたり、そうして自分を高めていくことができなくとも、イエス様の方から降りてきてくださる。限られた人のためにイエス様がいるのではなく、すべての人のためにイエス様は来られたのです。

今週水曜日から、大斎節がはじまります。大斎の期間、自分を振り返り、祈り、み言葉を聞く中で、わたしたちは自分の弱さに気づかされます。だからこそ、イエス様の復活を心から待ち望むことができるのです。

### 桃山基督教会

〒612-8039

京都市伏見区御香宮門前町 184

TEL/Fax 075-611-2790

メール momoyama.kyoto@nssk.org

<教会ホームページ>

<http://momoyama.hannari.com/>